

165 警察病院の一室

腕を白布で吊った村上

ベッドに佐藤がいる。

佐藤 「おめでとう！ 表彰状貰ったんだってね……中島さんか
ら聞いたよ」

村上 「いや……みんな佐藤さんのおかげですよ」

佐藤 「いやいや……表彰状第一号の感想はどうかね」

村上 「どうも……しかし、自分の失策しっさくから始まった事件ですし
……何か……」

佐藤 「まだ、コルトにこだわっているのかい……しかしね、も
のは考えようだ……君のコルトのおかげで本多のピストル
を十何丁もあげたんだ」

村上 「はア……でも、何だか、あの遊佐って男の事が……」

佐藤 「うむ……その気持ちは俺にも覚えがあるよ……最初に捕
まえた犯人って妙に忘れられないものさ……しかしね……
君が考えているより、ああ言う奴らは沢山いるんだ……何
人も捕まえてるうちに、そんな感傷なんか無くなるよ」

村上 「……」

佐藤 「……あの踊り子……何て言ったかな？」

村上 「並木ハルミですか」

佐藤 「そうそう……あの娘こみたいな感傷だわかって判らん事はない
……でもね……窓の外を見たまえ……今日もあの屋根の下
でいろんな事件が起こるだろう……そして、何人か善良な
人間が、遊佐みたいな奴の餌食になるんだ！」

村上 「……」

佐藤 「遊佐の事なんか忘れるんだな……いやその腕なわが癒なったら、
また忙しくなる……遊佐の事なんか自然と忘れるよ」

村上、窓辺に立って見下ろす。